



濾過砂入れ替え作業風景

■ 登録有形文化財の浄水施設

濾過池の調整井は半円筒や円筒形状で、正面には柱を並べたような非常に凝った意匠が施され、装飾的な大変珍しい外観です（図1）。濾過池の天端には花崗岩の笠石が敷かれています。

忌部浄水場は平成30年に100年を迎えた歴史のある施設であり、1号から6号濾過池と附属施設の9施設は国の登録有形文化財に登録されています（図2）。



図1 1号濾過池調整井正面



図2 登録有形文化財記念碑

■ 松江市水道の歩み

明治28年、内務省御雇工人のW.K.バルトン氏(図3)の水源調査によって忌部に水源を求める計画が立てられました。その計画をもとに千本ダムを建設し、浄水場をはじめとする各施設の整備を行い、大正7年6月1日に給水を開始しました。以後、松江市の発展とともに人口が増加し、11次に及ぶ拡張事業を経て現在に至っています。

忌部浄水場は、千本ダムと大谷ダムを水源とし、現在、松江市で1日に使われる水61800 m³の約20%の水道水が作られています。

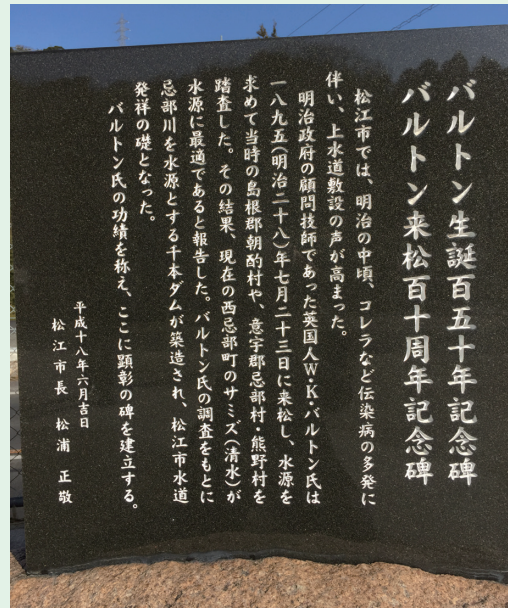


図3 W.K.バルトン氏記念碑

■ 山陰地方最初のコンクリートダム

千本ダム(図4)は、山陰地方で最初にコンクリートが用いられた水道専用のダムであり、大正8年に完成した全国35番目の近代上水施設です。高さ15.76 m、長さ約109.09 mの溢流式直線重力粗石コンクリートダム造で、外観は御影石で覆われ、粗石が谷積みされた希少な造りであり、平成15年度土木学会選奨土木遺産に認定されています。

ダムの周辺は、桜の公園として整備され、忌部の桜の名所として地元で親しまれています。

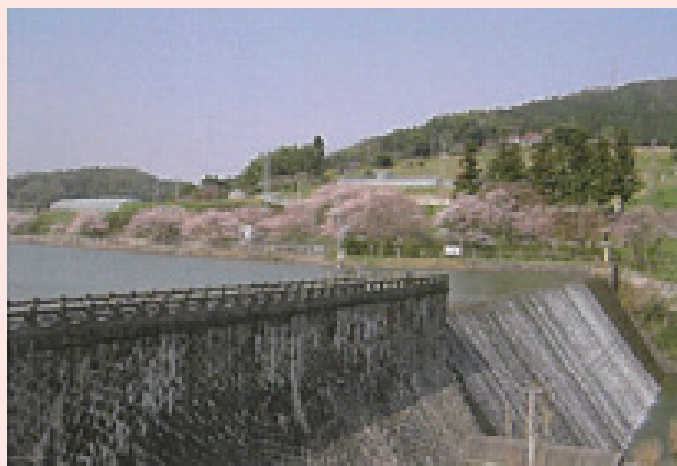


図4 千本ダムと桜

参考文献

- 1) 文化遺産オンライン 忌部浄水場
<https://bunka.nii.ac.jp/index.php>
- 2) 水道の歴史「松江市水道デジタルアーカイブ」
https://www.water.matsue.shimane.jp/water_material/digital_archive/
- 3) 土木学会 千本堰堤 平成15年度選奨土木遺産受賞
<http://committees.jsce.or.jp/chugoku/node/46>
- 4) 松江市上水道局 忌部浄水場のしくみ